

のびゆく北小っ子

R6. 7. 2 文責 副校長 横田 和重

命を大切に、思いやりのある北諫早っ子
きたいに応えます
いつも笑顔で挨拶します
さいごまで あきらめません
はやね 早起き朝ごはんて生活します
やくそくを守ります
いのちを大切にします。
【北諫早小学校 ころこの教育推進会議】

7月になりました ～「できるようになった自分を発見しよう」～

早いもので7月を迎えました。7月19日（金）には1学期の終業式を迎えることとなります。終業式までの期間、各学級では、4月に考えた学級の目標や今まで取り組んできた係活動や生活面の振り返りを行ったり、学習内容のまとめを行ったりします。振り返りを行うことで、自分の成長に気付くとともに、自尊感情や自己有用感を高めることにもつながります。子どもたちには「できるようになった自分」をたくさん発見してほしいと思います。

1学期を振り返り、
できるようになった自分を
見つけよう。



7月の呼称あれこれ

7月の呼称にはどのようなものがあるのか気になったので調べてみました。いろいろな呼称があるようですが、その一部を紹介します。

文月…「ふみづき」

古くは、書物のことを“文”といいました。7月7日の七夕の夜に、書物を開いて夜の冷えた空気にさらし、書の上達を祈る風習があったことから、文披月と呼ぶようになったということです。“文披月”のままでも、7月の異称として使われました。

秋初月…「あきはづき」

旧暦では、7月から秋になります。7月は秋の初めの月ですから、「秋初月」と呼ばれたそうです。

巧月…「こうげつ」

7月7日の七夕は、中国から伝わった「乞巧奠（きっこうでん）」がもとになっています。乞巧奠は、供え物をして織姫星をまつり、技能や芸事の上達を祈る儀式でした。今では、どんな願い事でも託してしまいますが、本来は、裁縫や織物、書道や和歌などの技が上手になるように祈る日だったそうです。

愛逢月…「めであいづき」

織姫と彦星の伝説も、乞巧奠と同じ頃に、中国から伝わりました。この伝説は、通い婚だった当時の貴族たちの心をとらえ、歌に詠まれたり、さまざまな風習を生んだりしました。

「愛逢月」は、織姫と彦星が愛して逢う月という意味で、7月の異称だそうです。

この他にも、七夕月…「たなばたづき」、女郎花月…「おみなえしづき」、

饞暑…「せんしょ」、涼月…「りょうげつ」などがあります。



校内でも七夕を見つけました

右の写真は、4年生の階段の
ところの掲示板です。子ども
たちの願いとともに、短歌の掲
示もあり、4年生の学びを意
識したものになっていました。

他にも7月になり、夏向けの
掲示に入れ替わっています。



ここに右の短歌が掲示してあります。

